



自画像 1921年 油彩 65.0*53.0

Banka Museum Tomi City

丸山
晚霞
記念館

信州
東御市

S h i k o M i y a c h i

宮地志行

2014.9.13(土) ~ 11.3(月・祝)



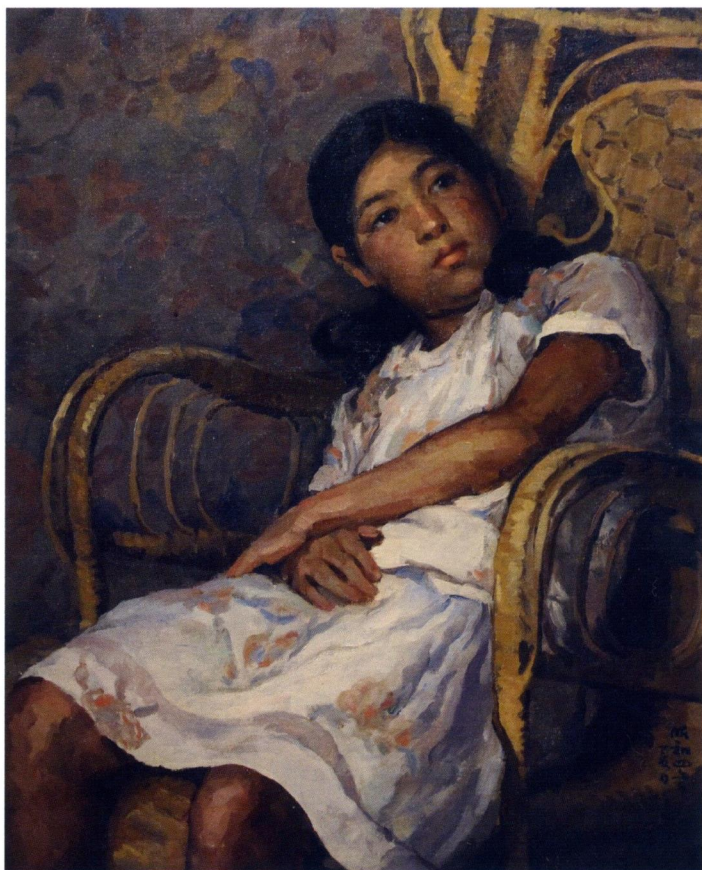
ストーブを焚く少女 1915年 油彩 91.0*64.0

「宮地志行」特別展示について

丸山晚霞と関係があったことを示す1枚の葉書から、宮地志行を知りました。日本水彩画講習所に学び、日本水彩画会の創立に参加、また丸山晚霞以外にも当時の重要作家らと交友があり、特に岡精一に師事し太平洋画会においては会友推挙を受け、これからは期待されていた存在であったと思われます。

45歳で早世してしまったため、その画業は埋没しておりますが、地道な調査を続けておられるご遺族に敬服し、非力ながら光りをあてる仕事として、特別展示をいたしました。

宮地志行のホームページ http://www.geocities.jp/shikoh_miyachi/



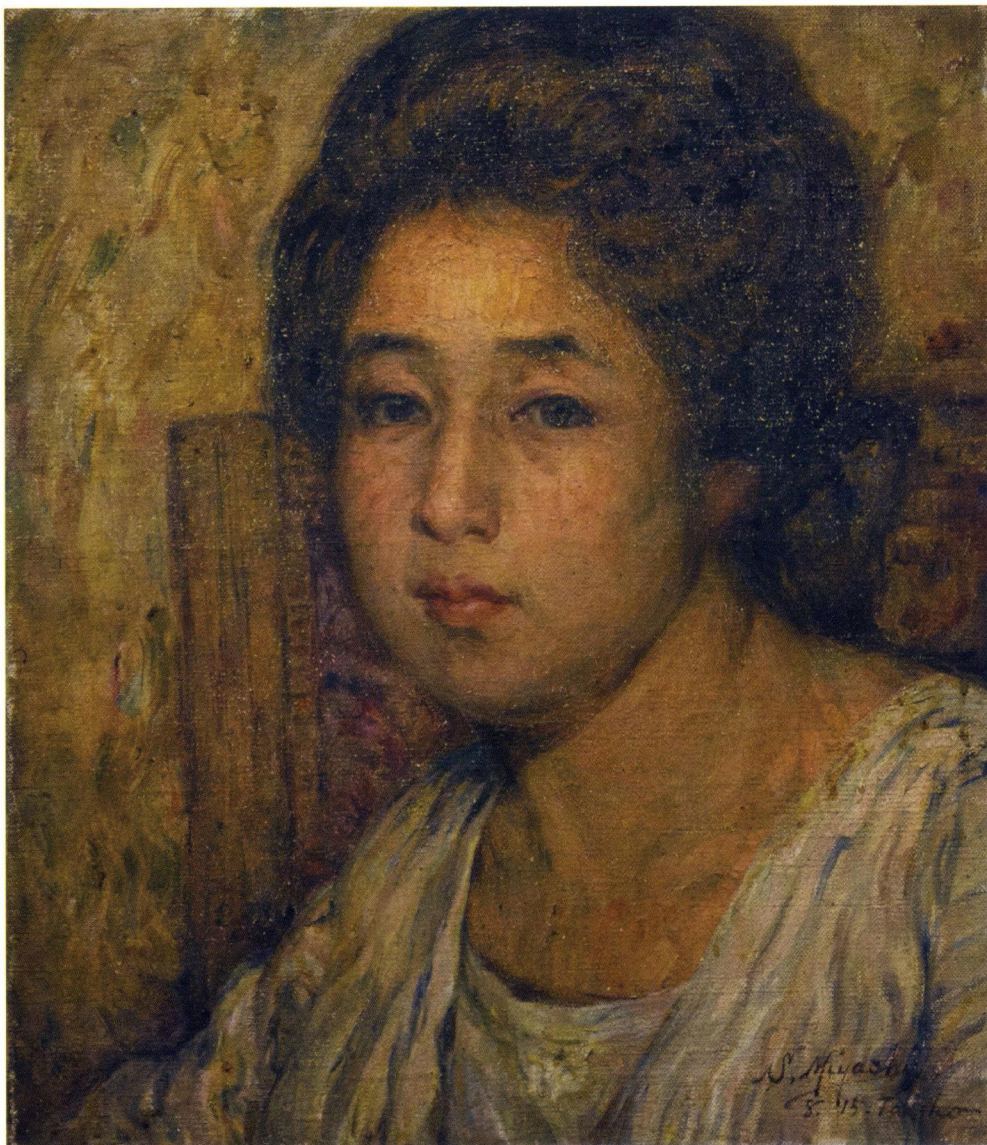
藤椅子の少女 1929 年 油彩 100.0*80.3



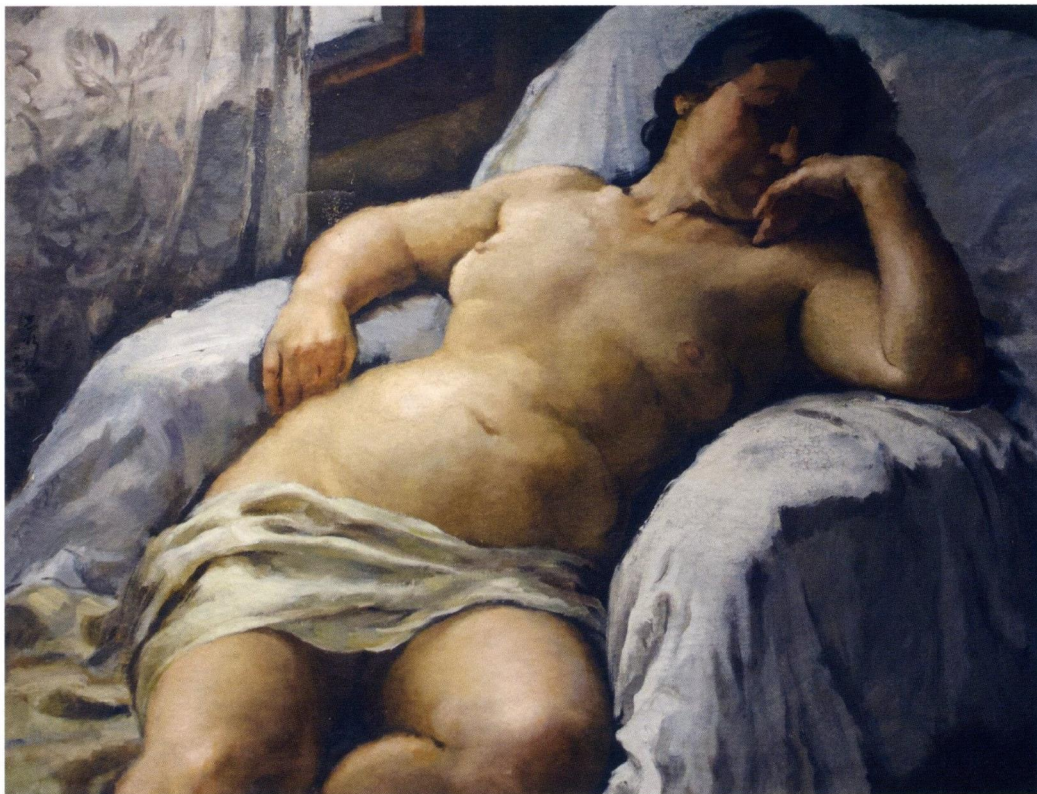
藤椅子の少女 1927 年 油彩 117.0*90.0



読書 制作年不詳 油彩 136.5*112.5



光枝 1926年 油彩 52.5*40.0



窓辺の裸婦 1932年 油彩 91.0*116.5



裸婦群像 1929年頃 油彩 136.0*161.0

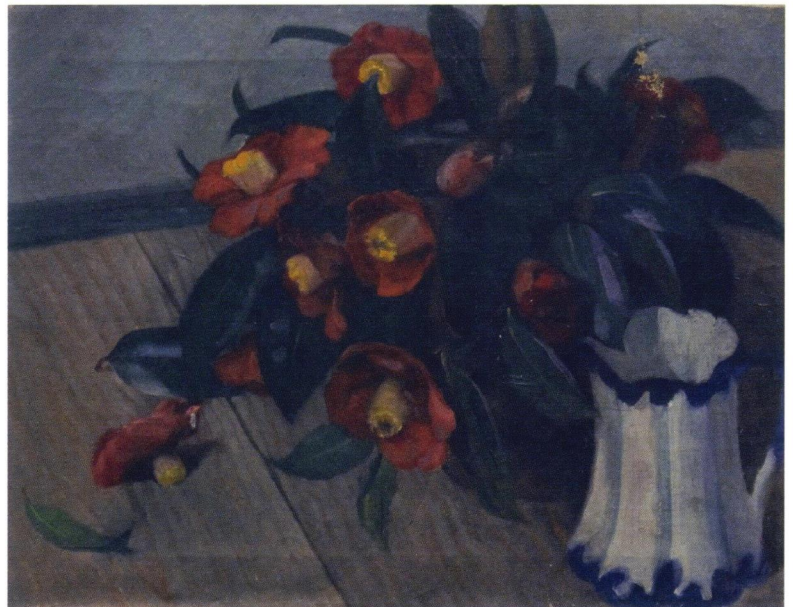


半原操り人形浄瑠璃 1930年 油彩 105.0*86.0

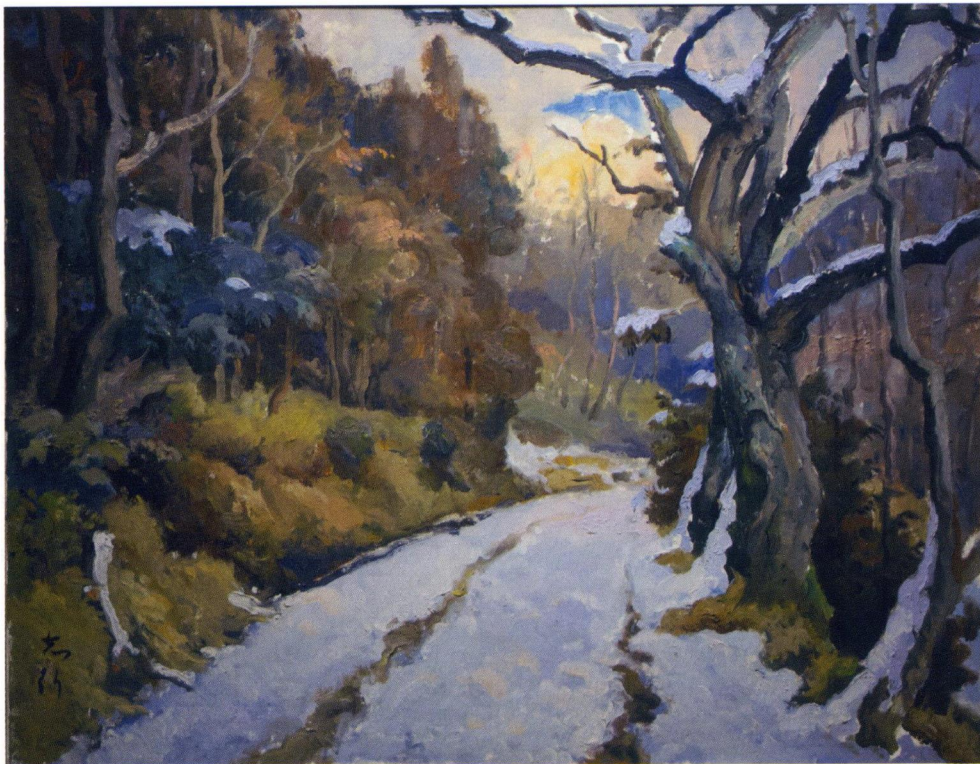
宮地志行は、郷土の日吉村半原（現岐阜県瑞浪市）の「半原文楽」で上演された人形浄瑠璃の保存にも努め、人形の首はすべて志行の製作によるものであったが、志行の没後、火災によって焼失してしまった。



椿 制作年不詳 油彩 41.0*31.8



椿 制作年不詳 油彩 31.8*41.0



雪景色（雪の平原） 1936 年（絶筆） 油彩 91.0*116.5



宮地志行略年譜

- 1891 年（明治 24） 岐阜県土岐郡日吉村平原に生まれる。本名景樹（かげぎ）。父は小学校校長、のち日吉村長。
- 1909 年（明治 42） 岐阜県立東濃中学校卒業と同時に上京。
岡精一に師事、高間惣七、中村不折にも学ぶ。洋画、水墨画、水彩画など幅広く修業。
- 1913 年（大正 2） 日本水彩画会創立に宮地景樹の名で参加。
- 1918 年（大正 7） 加知光枝と結婚。
- 1923 年（大正 12） 東京と岐阜を往き来する生活となる。横山大観、下村観山、石井柏亭のほか、童話作家安部季雄、沖野岩三郎、久留島武彦、版画家小山良修、八木岐平、作家横山美智子、大仏次郎、林芙美子、北川千代とも親交をむすぶ。
昭和初期よりラジオ雑誌・時事新報・雑誌「少年」「少女」「主婦之友」などの表紙、挿絵を担当。
- 1931 年（昭和 6） 母校の日吉第一尋常高等小学校の改築・設計案を担当。郷土の平原操り人形浄瑠璃のための大道具・小道具等も主なものは殆ど志行の製作であった（昭和 29 年不慮の火災で焼失）。
- 1930 年（昭和 5） 太平洋画会会友推挙。
- 1933 年（昭和 8） 銀座の川島東京店にて個展開催。
- 1936 年（昭和 11） 結核により死去。享年 45 歳。
- 1961 年（昭和 36） 遺作展（瑞浪市商工会館）。
- 1994 年（平成 6） 遺作展（瑞浪市総合文化センター）。
- 2000 年（平成 12） 遺作展（瑞浪市市之瀬廣太記念美術館）。
- 2014 年（平成 26） 遺作特別展示（丸山晚霞記念館・長野県東御市）



アトリエ外観（当時）